

毛利氏ルーツの品が見つかりました!?



栗屋彦太郎へ褒美を与える藩の文書（部分）

「ほっとやまはく」 タイム⑦



もの
「丸形古銅器」なる

県立山口博物館に毛利家伝来の「丸形古銅器」と称される資料があります。直径18・4センチ、厚さ8ミリの円盤状で、裏面に「宝治元年六月五日」「毛利季光」と刻まれています。



丸形古銅器の裏面

この「毛利季光」なる人物は、毛利氏の始祖である鎌倉幕府政所別当・大江広元の4男季光（すえみつ）です。「宝治元（1247）年6月5日」は、季光が宝治合戦（執権北条氏が有力御家人三浦氏を滅ぼした戦い）で戦死した日です。この古銅器には、まさしく毛利氏のルーツに関わる大切な情報が記されているのです。その用途は？制作事情は？今回は、付属する2通の古文書を基に、一つの古銅器をめぐるエピソードを紹介します。

鎌倉の地で
1853（嘉永6）

年11月から58（安政5）年6月まで、ペリ来航後の外国船対策のため、幕府は長州藩に相模国（神奈川県）の沿岸警備を命じました。当時、長州陣屋には多くの商人が出入りしており、その中で鎌倉の古道具商、仏屋利兵衛もさまざまな骨董（こつとう）品を持ち込んでいました。

ある日、警備要員の一人である栗屋彦太郎は、利兵衛から毛利氏始祖の名前が入った古銅器が鎌倉の農家にあると紹介されます。興味を持った彦太郎は、早速その品物を取り寄せました。見たところ、用途がはっきりしないものでしたが、確かに始祖の名前と没年月日が記されていました。彦太郎は、もしやご位牌（いはい）のようなものなのではと考

え、鎌倉の寺に問い合わせてみます。その答えは「いずれの御用に相成り申し候や、相わかり申さず候」でした。結局、周りの者とあれこれ審議をしてみたものの決着はつかず、そのまま買い取って萩へ持って帰りました。その後、用途不明とはいえ、毛利氏始祖の名前と忌日が記されているため捨て置くわけにもいかず、彦太郎は悩んだ末に藩に献上することになりました。

御宝蔵へ
64（元治元）年2月、献納の申し出を受けた長州藩は、入手の経緯や古銅器の内容と用途を調査し、次のよ



丸形古銅器の納箱

うな見解を出します。「用途は不明だが、近年の製作とは思われない。忌日も正しく、その当時の仏器に間違いないと考えられる」と。その上で、「このような品を一家臣が所持するのはよろしくないの、申し出のおおりに献上させ、藩の御宝蔵に収納する」ことにしました。さらに、彦太郎には、御先霊様尊信の志が神妙であり、格別の沙汰をもって褒美に金300疋（ひき）＝2万7000円程度、諸説あり、七歩引きⅡを与えました。

古銅器のその後

この古銅器は、明治維新後も毛利家で大切に保管され、戦後に県立山口博物館に寄贈されました。本器を改めて見てみると、銘文の記し方など若干気になる点があり、用途も不明で、果たして鎌倉時代の器物かどうか確証はありません。一方、毛利氏の先祖に関わる資料として藩の御宝蔵で大切に保管されたものであることは間違いない、これにまつわるエピソードは、主君や御家筋に関する事柄を何よりも重んじた当時の武家社会の在り方を物語るものといえます。

山田稔（学芸課主任、歴史担当）
▽次回は12月11日です。

山口県立山口博物館
TEL 083-922-0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。最新情報はホームページで。

